

資料（４）（仮称）スマートパーク地質調査結果

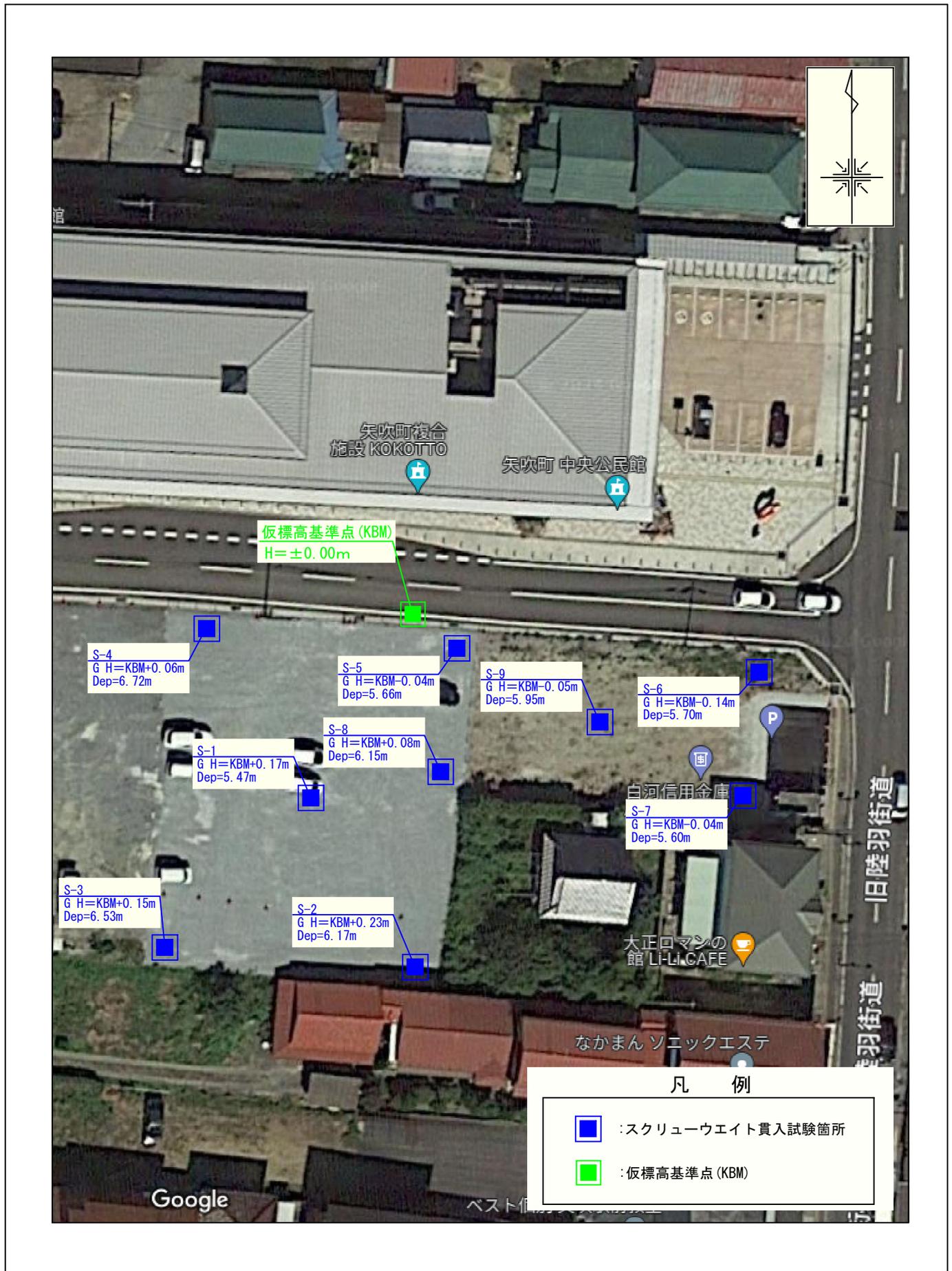


図-3.1.1 調査位置平面図 (S=1:500)  
(Google Maps より引用)

## 6. 総合解析

### 6-1. 長期許容支持力の推定

日本建築学会による「小規模建築物基礎設計の手引き」を基準に、長期許容支持力を推定する。  
表-6.1.1 に長期許容地耐力表をそれぞれ示す。

表-6.1.1 長期許容地耐力表(日本建築学会「小規模建築物基礎設計の手引き」昭和63年3月, p36)

地 盤		長期許容地耐力 (kN/m <sup>2</sup> )	備 考	
			N値	Nsw値
土丹盤		300	30以上	—
礫層	密実なもの	600	50以上	—
	密実でないもの	300	30以上	
砂質地盤	密なもの	300	30~50	400以上
	中 位	200	20~30	250~400
		100	10~20	125~250
	ゆるい※1	50	5~10	50~125
	非常にゆるい※1	30以下	5以下	50以下
粘土質地盤	非常に硬い	200	15~30	250以上
	堅 い	100	8~15	100~250
	中 位	50	4~8	40~100
	軟らかい※2	30	2~4	0~40
	非常に軟らかい※2	20以下	2以下	Wsw100以下
関東ローム	硬 い	150	5以上	50以上
	やや硬い	100	3~5	0~50
	軟らかい※3	50以下	3以下	Wsw100以下

注) ※1 液状化の検討を要す。

※2 過大な沈下に注意を要す。

※3 二次堆積土では長期許容地耐力 20kN/m<sup>2</sup>以下のこともある。

※4 短期許容地耐力は長期の1.5~2.0倍をとることができる。

表-6.1.2に各地層の長期許容地耐力推定一覧表を示す。

表-6.1.2 各地層の長期許容地耐力推定一覧表

地質名	土質記号	Nsw値	長期許容地耐力 推定範囲 (kN/m <sup>2</sup> )	該当地盤	長期許容地耐力 <sup>※1</sup> (kN/m <sup>2</sup> )
盛土 (砂質土)	bn	4~560	30以下~300	非常にゆるい~ 密なもの	30以下
粘性土	Ac	0~48	20以下~50	非常に軟らかい~ 中位	20以下
砂質土	As	52~1310 <sup>※2</sup>	50~300	ゆるい~密なもの	50

注) ※1 スクリューウエイト貫入試験の結果より、長期許容地耐力を選定した。

※2 砂質土 (As) の一部の Nsw 値が過大な箇所は棄却した。

#### <盛土(砂質土) : bn>

当層は砂質土の盛土と考えられ、Nsw 値 4~560 とバラツキが見られる。表-6.1.1 では、非常にゆるい~密な砂質土地盤に該当し、長期許容地耐力は 30 以下~300kN/m<sup>2</sup>となる。長期許容地耐力にバラツキが見られるため、安全側を考慮し、長期許容地耐力は 30kN/m<sup>2</sup>以下と評価する。

#### <粘性土 : Ac>

当層は粘性土と考えられ、Nsw 値 0~48 を示す。表-6.1.1 では、非常に軟らかい~中位な粘性土地盤に該当し、長期許容地耐力は 20 以下~50kN/m<sup>2</sup>となる。当層には 0.50~1.00kN の荷重で自沈する層が散在するため、安全側を考慮し、長期許容地耐力は 20kN/m<sup>2</sup>以下と評価する。

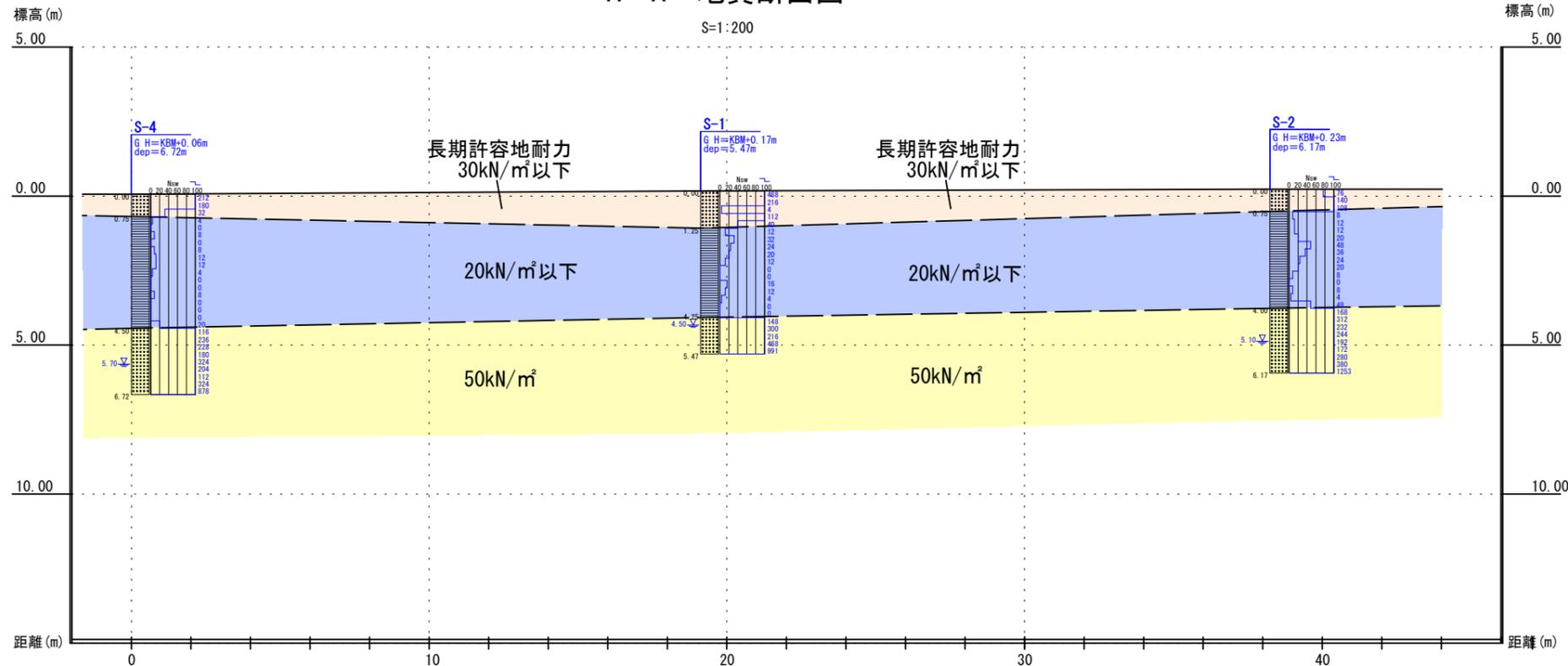
#### <砂質土 : As>

当層は砂質土と考えられ、Nsw 値 104~1310 を示す。表-6.1.1 では、ゆるい~密な砂質土地盤に該当し、長期許容地耐力は 50~300kN/m<sup>2</sup>となる。よって、当層の長期許容地耐力は 50kN/m<sup>2</sup>と評価する。

次ページに、地質断面図を示す。

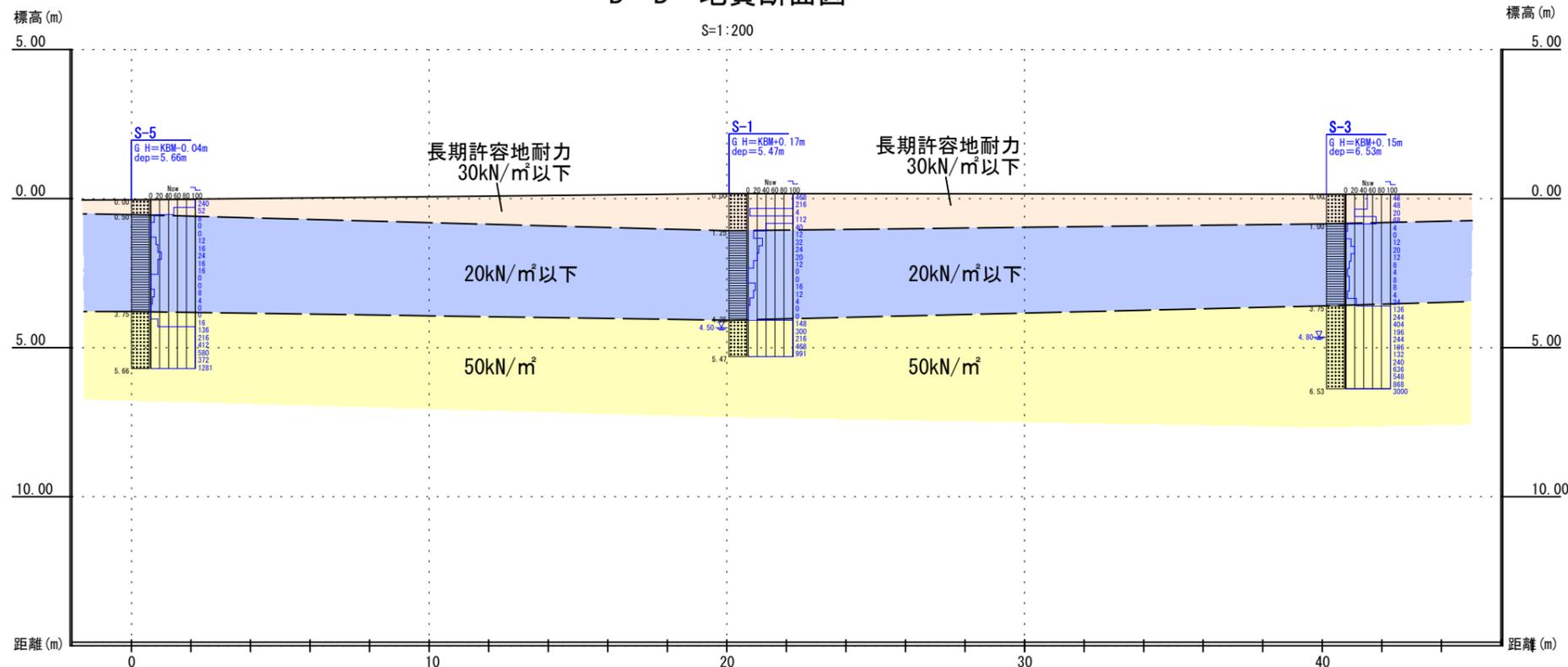
A-A' 地質断面図

S=1:200



B-B' 地質断面図

S=1:200



長期許容地耐力推定一覧表

地質名	土質記号	Nsw値	長期許容地耐力推定範囲 (kN/m <sup>2</sup> )	該当地盤	長期許容地耐力 (kN/m <sup>2</sup> ) <sup>※1</sup>
盛土 (砂質土)	bn	4~560	30以下~300	非常にゆるい~密なもの	30以下
粘性土	Ac	0~48	20以下~50	非常に軟らかい~中位	20以下
砂質土	As	52~1310 <sup>※2</sup>	50~300	ゆるい~密なもの	50

注) ※1 スクリューウェイト貫入試験の結果より、長期許容地耐力を選定した。  
 ※2 砂質土 (As) の一部のNsw値が過大な箇所は除外した。

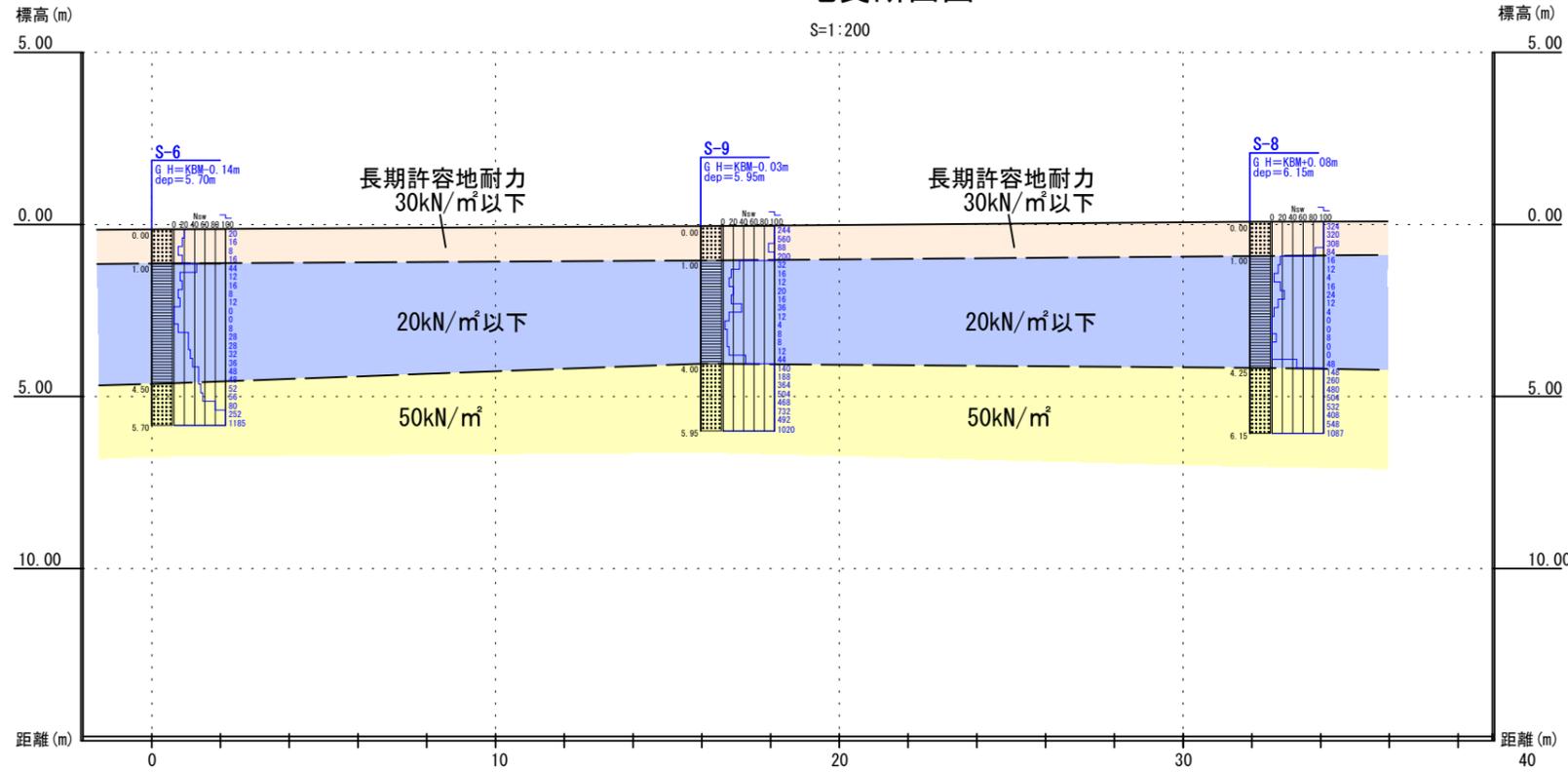
— — : 地層境界線

調査位置平面図 (S=1:500)



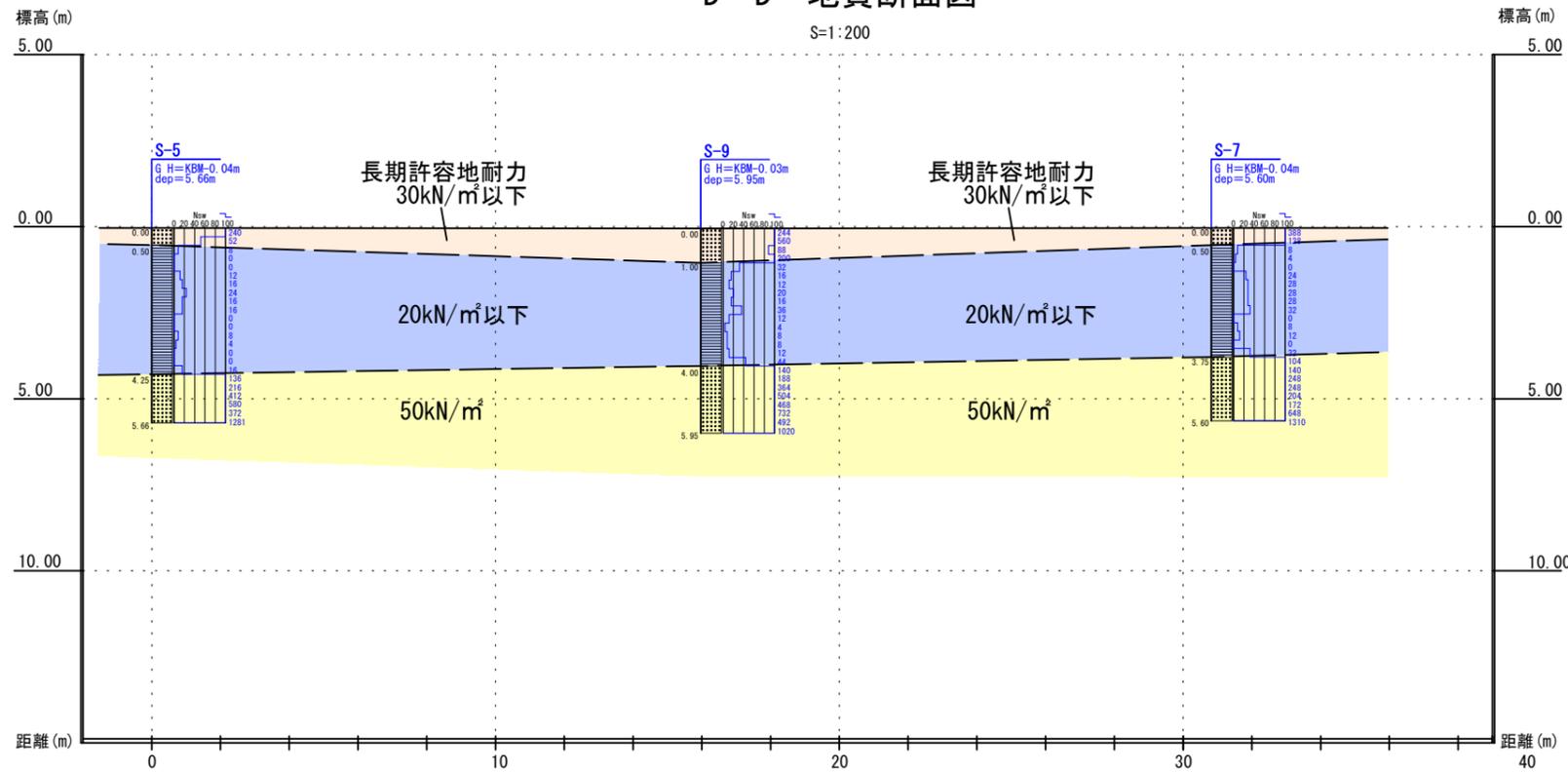
C-C' 地質断面図

S=1:200



D-D' 地質断面図

S=1:200



長期許容地耐力推定一覧表

地質名	土質記号	Nsw値	長期許容地耐力推定範囲 (kN/m <sup>2</sup> )	該当地盤	長期許容地耐力 <sup>※1</sup> (kN/m <sup>2</sup> )
盛土 (砂質土)	bn	4~560	30以下~300	非常にゆるい~密なもの	30以下
粘性土	Ac	0~48	20以下~50	非常に軟らかい~中位	20以下
砂質土	As	52~1310 <sup>※2</sup>	50~300	ゆるい~密なもの	50

注) ※1 スクリューウェイト貫入試験の結果より、長期許容地耐力を選定した。  
 ※2 砂質土(As)の一部のNsw値が過大な箇所は除外した。

--- : 地層境界線

調査位置平面図 (S=1:500)



## 6-2. 計画建築物に対する基礎形式の選定

当該計画建築物は木造平屋建ての運動施設建屋が計画されている。スクリーウエイト貫入試験結果に基づき、基礎形式の選定を行う。根入れ深度は GL-0.50m, 建物地耐力は 20kN/m<sup>2</sup>と仮定する。建築物の一般的な基礎形式は、以下に示す工法が挙げられる。

- (1) 直接基礎 (布基礎・べた基礎)
- (2) 置換工法
- (3) 地盤改良 (表層改良・柱状改良)
- (4) 杭基礎 (支持杭・摩擦杭) (今回の計画建築物には適さないと判断する。)

各工法の概要を示し、当該建築物に対する適否を述べる。

### (1) 直接基礎

直接基礎は、計画建築物荷重に対して、許容地耐力度が得られる地盤が浅い深度に分布する場合に適用可能な基礎形式である。工種は、「布基礎」および「べた基礎」に分類される。

「布基礎」および「べた基礎」の模式図を、図-6.2.1に示す。

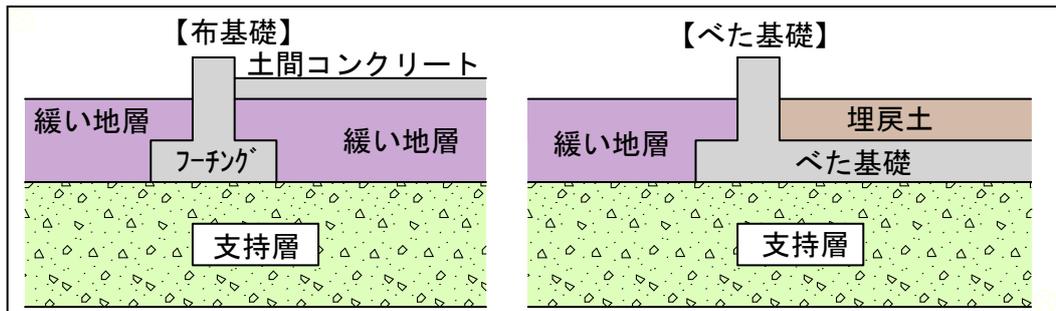


図-6.2.1 布基礎・べた基礎の模式図

各基礎形式に必要な長期許容地耐力の目安を表-6.2.1に示す。

表-6.2.1 必要な許容地耐力の目安値(長期 kN/m<sup>2</sup>(tf/m<sup>2</sup>))

基礎形式	木 造			コンクリートブロック造	
	平 屋	2 階 建	3階建	平 屋	2 階 建
布 基 礎	30 (3)以上	30(3)以上 多雪地50(5)以上	50 (5)以上	50 (5)以上	100(10)以上 〔屋根, 床木造のとき〕 50(5)以上
べ た 基 礎	30 (3)未満	30(3)未満 多雪地50(5)未満	50 (5)未満	50 (5)未満	100(10)未満 〔屋根, 床木造のとき〕 50(5)未満

(日本建築学会 小規模建築物基礎設計の手引き 昭和63年3月 p.35)

### 【計画建築物に対する適否】

当該計画地における基礎の根入れ深さを GL-0.50mとした場合、盛土(bn)が床付け底盤となる。6-1 項で述べた様に、盛土以深に見られる粘性土(Ac)の長期許容地耐力は 20kN/m<sup>2</sup>以下となることから、直接基礎での施工は困難と判断する。

不同沈下の原因とその一例を表-6.2.2 および図-6.2.2 に示す。

表-6.2.2 不同沈下原因例 (日本建築学会 小規模建築物基礎設計指針 平成20年2月 p.255)

区分		原因	図
既存地盤	軟弱地盤	不均一に堆積した軟弱地盤上に建築した場合	(a)
	建物荷重の偏り	平面的に建築物の重量が偏る場合	(b)
擁壁部	擁壁等の変位	擁壁の変位などに伴う背面地盤の変位と沈下	(c)
	埋戻し不良	擁壁や地下車庫等の構築に伴う背面埋戻し不良による場合	(d)
地盤改良	設計不足	工法選定ミスや軟弱層厚が不均一な場合の杭長不足など	(e)
	施工不良	改良体の支持力不足や腐植土層などによる未固化など	(f)
宅造地盤	盛土の沈下	盛土や建物荷重による盛土自体および下部地盤による盛土上の沈下	(g)
	盛土の施工不良	不適切な盛土材、転圧不足、盛土時期や盛土厚さの違いなど	(h)
	切盛造成	切土と盛土にまたがる敷地に建築した場合	(i)
近接工事	掘削工事	土留変形や矢板引抜、地下水位低下による圧密沈下	(j)
	盛土および建築物	敷地に近接した盛土や建築物の荷重による沈下	(k)

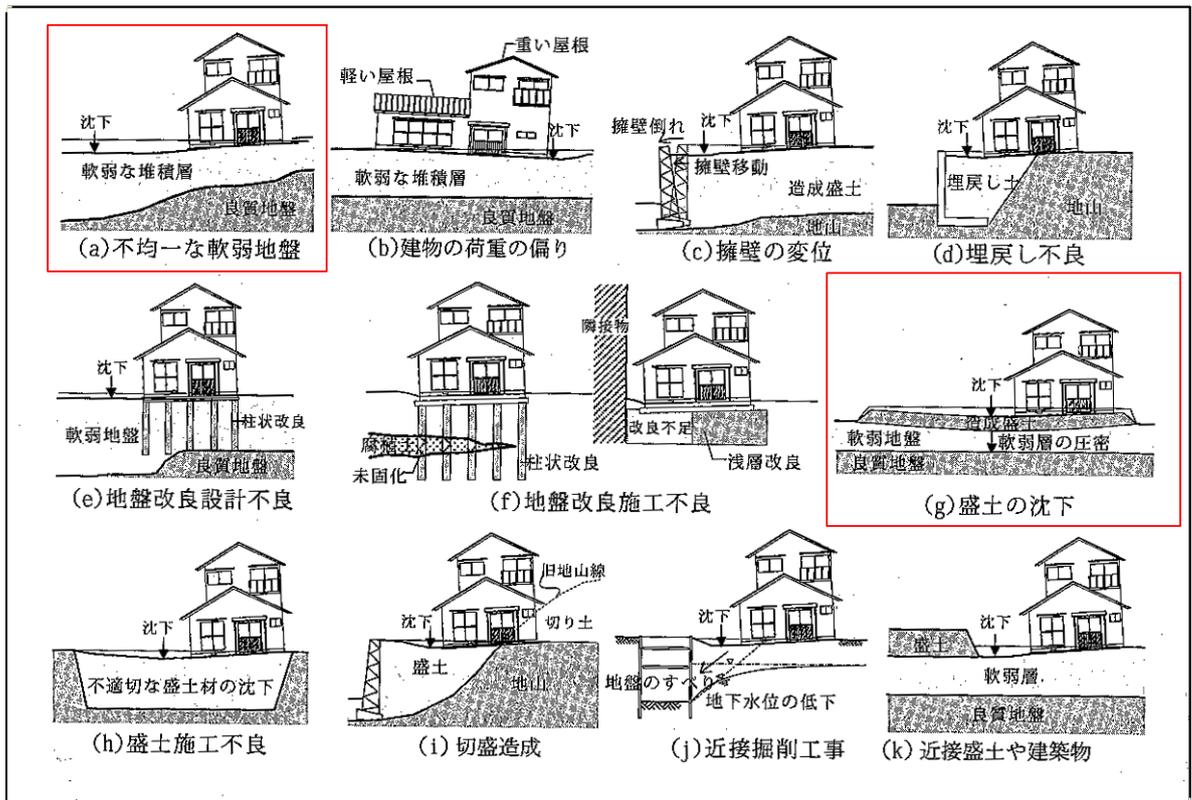


図-6.2.2 不同沈下の原因例 (小規模建築物基礎設計指針 平成20年2月 p.256)

## (2) 置換工法

置換工法は、地盤改良工法の一つで、図-6.2.3に示すように、軟弱な部分を掘削し、切込み砂利などの良質な材料で置換える工法である。当工法は、「布基礎」および「べた基礎」の両工法において採用可能な工法である。施工深度は計画建築物の規模にもよるが、標準的にはGL-1.5~2.0m程度が適用限界と考えられる。置換工法の断面例を、図-6.2.3に示す。

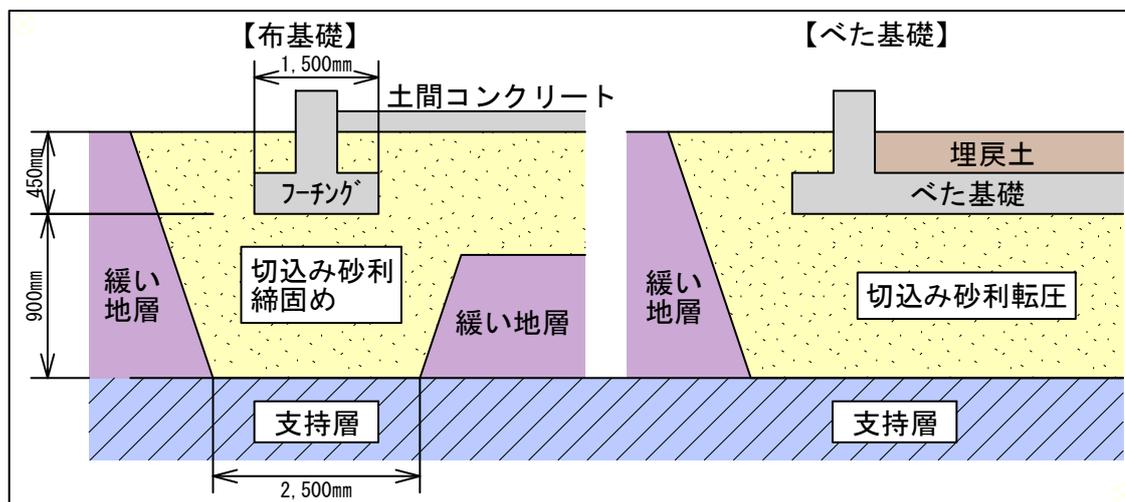


図-6.2.3 置換工法の断面例（「小規模建築物基礎設計の手引き」p.83）

### 【当該建築物に対する適否】

当工法の適用最大深度の2.0m以深に分布する粘性土(Ac)の長期許容地耐力が $20\text{kN/m}^2$ 以下と考えられるため、置換工法は適用不可となる。

### (3) 地盤改良工法

地盤改良工法は、支持層が深く直接基礎が困難な場合に適用する工法である。施工深度によって工種が2種類あり、①地表から改良深度がGL-1.0～2.0mの「表層処理工法」、②改良深度がGL-2.0～8.0m程度の「柱状改良」がある。表層改良概念図を図-6.2.4、柱状改良の施工順序を図-6.2.5に示す。

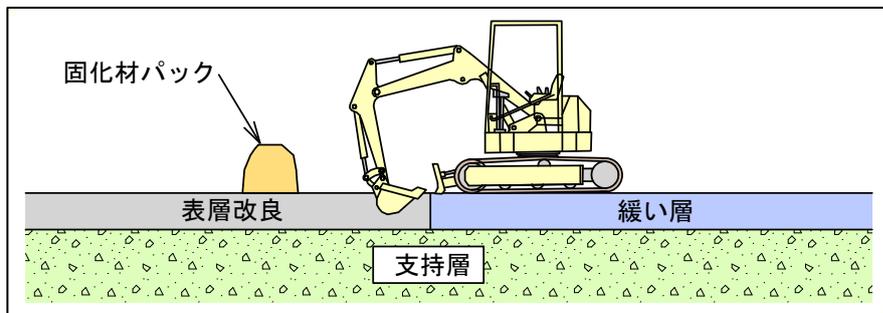


図-6.2.4 表層改良の概念図

#### 【柱状改良工法の適用範囲・施工順序】（「住宅地盤の調査・施工に係る技術基準」p.48, p.57）

- ① 改良径は直径 600mm 以上とする。ただし、公的な評価を受けた工法は除く。
- ② 改良長は 2.0～8.0m 以下を原則とする。ただし、2.0m 未満の場合は別途検討が必要となる。
- ③ 適用地盤は、砂質土（礫質土を含む）および粘性土地盤とする。

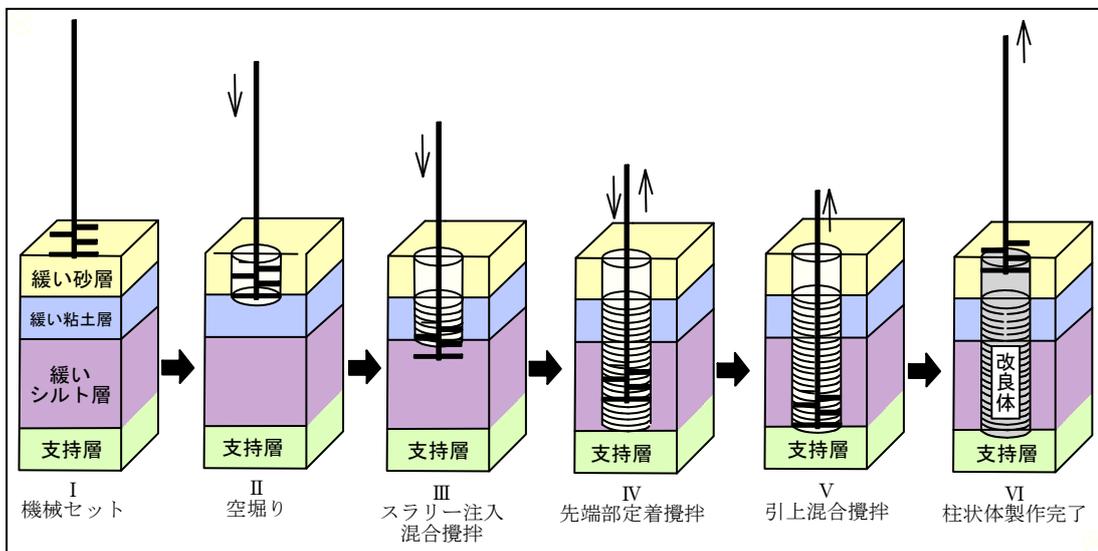


図-6.2.5 柱状地盤改良の施工順序

#### 【当該建築部に対する適否】

##### 【表層改良】

当工法の適用最大深度の 2.0m 以深に分布する粘性土(Ac)の長期許容地耐力が 20kN/m<sup>2</sup>以下と考えられるため、表層改良は適用不可と考える。

##### 【柱状改良】

当該地の地盤状況に対し、柱状改良は適用可能な工法と考える。

(5) 基礎形式のまとめ

各基礎形式についての適合性について検討した結果を整理し，表-6.2.3に示す。

表-6.2.3 各基礎形式の適否

基礎形式		適否	特記事項
直接基礎		適用難	Acの長期許容地耐力が乏しい
置換工法		〃	
地盤改良	表層処理	〃	
	柱状改良	適用可	施工性・経済性・環境影響の検討が必要

当該計画地における基礎形式は，柱状改良が可能であると考えられる。

## 7. 設計・施工時の留意事項

### 7-1. 設計時の留意事項

#### (1) 長期許容地耐力

長期許容地耐力の設定は、スクリーウエイト貫入試験の結果で検討し、安全性を考慮した設計提案値を設定した。

設定の際には、地質条件や現地状況を照査し、設計採用値を決定する必要がある。

#### (2) 基礎形式

基礎形式は、柱状改良工法を適した工法としたが、安全性、施工性、経済性について比較検討し、基礎形式の選定をする必要がある。

#### (3) 環境条件

敷地周辺には銀行や複合施設等が隣接している。基礎処理工法を選定する際は、騒音や振動など環境面に配慮した施工方法を選定する必要がある。

### 7-2. 施工時の留意事項

#### (1) 品質管理について

柱状改良を採用する場合、施工時の品質管理と設計強度を保持しているかどうか、サンプリング試料を採取し、一軸圧縮強度 $q_u$ を求め、目標強度を満足しているかどうかの確認を行うことが重要である。

#### (2) 低公害機械の選定

敷地周辺には銀行や複合施設が隣接している。利用者に影響を及ぼさないようにするため、施工に用いる機械類は、低騒音・低振動機械を採用するなど、周辺環境に配慮した工法を推奨する。

以 上

調査名・調査地点 矢吹町スポーツ デジタル振興プロジェクトハード整備に係る地質調査 試験年月日 令和 6年 3月 18日

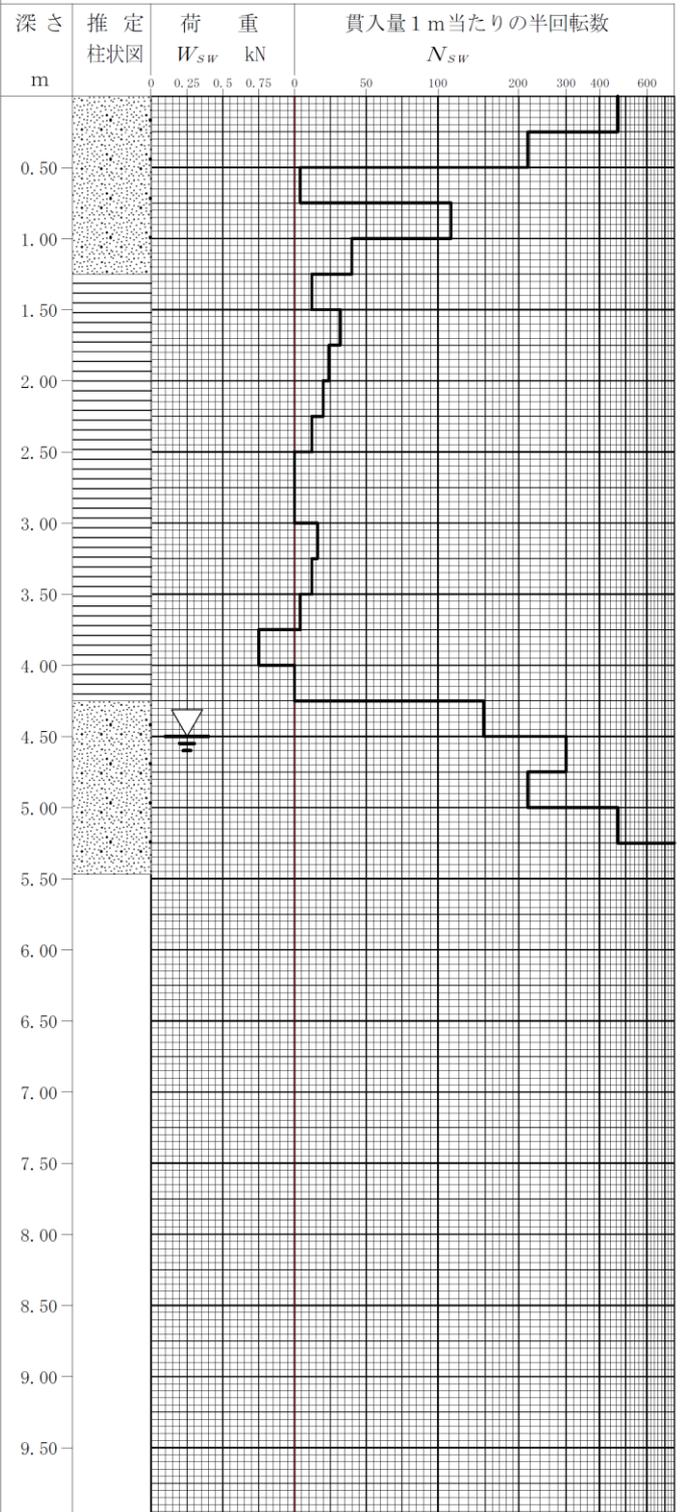
天 候 晴れ

試 験 者

測点番号 : S-1 標 高 KBM+0.17 m  
 最終貫入深さ 5.47 m 作業時間

土質記号 礫 粘土 粘土の砂混り  
 凡 例 砂 ピート 砂の粘土混り

荷重 $W_{sw}$ kN	半回転数 $N_a$	貫入深さ $D$ m	貫入量 $L$ cm	1m当りの 半回転数 $N_{sw}$	換 算 N 値	換 算 地耐力 kN/m <sup>2</sup>	記 事
1.00	117	0.25	25	468	33.4	267.2	盛土
1.00	54	0.50	25	216	16.5	132.0	〃
1.00	1	0.75	25	4	2.3	18.4	〃
1.00	28	1.00	25	112	9.5	76.0	〃
1.00	10	1.25	25	40	4.7	37.6	〃
1.00	3	1.50	25	12	3.6	36.0	
1.00	8	1.75	25	32	4.6	46.0	
1.00	6	2.00	25	24	4.2	42.0	
1.00	5	2.25	25	20	4.0	40.0	
1.00	3	2.50	25	12	3.6	36.0	
1.00	0	2.75	25	0	3.0	30.0	
1.00	0	3.00	25	0	3.0	30.0	
1.00	4	3.25	25	16	3.8	38.0	
1.00	3	3.50	25	12	3.6	36.0	
1.00	1	3.75	25	4	3.2	32.0	
0.75	0	4.00	25	0	2.3	23.0	
1.00	0	4.25	25	0	3.0	30.0	
1.00	37	4.50	25	148	11.9	95.2	
1.00	75	4.75	25	300	22.1	176.8	
1.00	54	5.00	25	216	16.5	132.0	
1.00	117	5.25	25	468	33.4	267.2	
1.00	218	5.47	22	991	>50	>300	貫入不能



備 考 GL-4.5m付近にて含水が高くなったので、地下水位と仮定した。

礫・砂・砂質土 :  $N = 2W_{sw} + 0.067N_{sw}$   
 粘土・粘性土 :  $N = 3W_{sw} + 0.050N_{sw}$

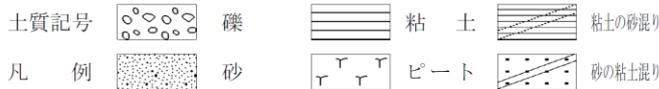
調査名・調査地点 矢吹町スポーツ デジタル振興プロジェクトハード整備に係る地質調査 試験年月日 令和 6年 3月 18日

天 候 晴れ

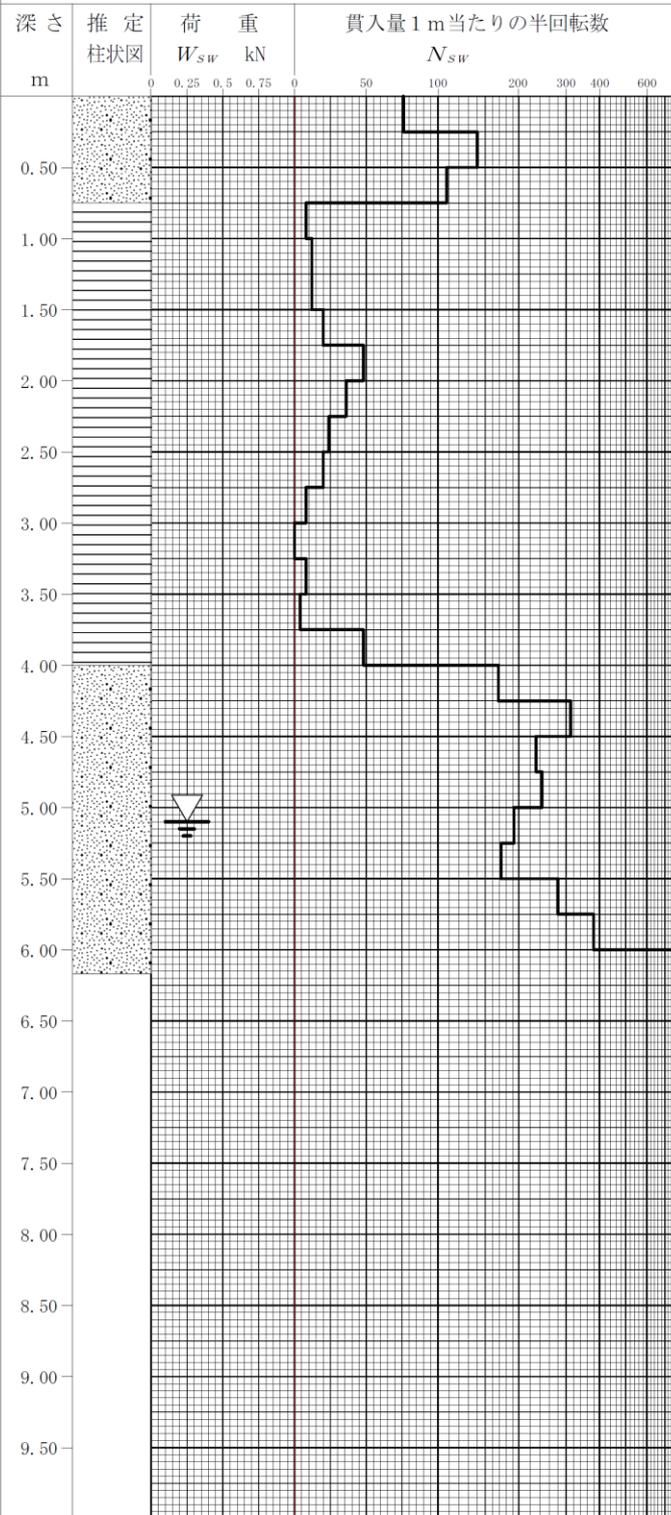
試 験 者

測点番号 : S-2 標 高 KBM+0.23 m

最終貫入深さ 6.17 m 作業時間



荷重 $W_{sw}$ kN	半回転数 $N_a$	貫入深さ $D$ m	貫入量 $L$ cm	1m当りの 半回転数 $N_{sw}$	換 算 N 値	換 算 地耐力 kN/m <sup>2</sup>	記 事
1.00	19	0.25	25	76	7.1	56.8	盛土
1.00	35	0.50	25	140	11.4	91.2	〃
1.00	27	0.75	25	108	9.2	73.6	〃
1.00	2	1.00	25	8	3.4	34.0	
1.00	3	1.25	25	12	3.6	36.0	
1.00	3	1.50	25	12	3.6	36.0	
1.00	5	1.75	25	20	4.0	40.0	
1.00	12	2.00	25	48	5.4	54.0	
1.00	9	2.25	25	36	4.8	48.0	
1.00	6	2.50	25	24	4.2	42.0	
1.00	5	2.75	25	20	4.0	40.0	
1.00	2	3.00	25	8	3.4	34.0	
1.00	0	3.25	25	0	3.0	30.0	
1.00	2	3.50	25	8	3.4	34.0	
1.00	1	3.75	25	4	3.2	32.0	
1.00	12	4.00	25	48	5.4	54.0	
1.00	42	4.25	25	168	13.3	106.4	
1.00	78	4.50	25	312	22.9	183.2	
1.00	58	4.75	25	232	17.5	140.0	
1.00	61	5.00	25	244	18.3	146.4	
1.00	48	5.25	25	192	14.9	119.2	
1.00	43	5.50	25	172	13.5	108.0	
1.00	70	5.75	25	280	20.8	166.4	
1.00	95	6.00	25	380	27.5	220.0	
1.00	213	6.17	17	1253	>50	>300	



備 考 GL-5.1m付近にて含水が高くなったので、地下水位と仮定した。

礫・砂・砂質土 :  $N = 2W_{sw} + 0.067N_{sw}$   
 粘土・粘性土 :  $N = 3W_{sw} + 0.050N_{sw}$

調査名・調査地点 矢吹町スポーツデジタル振興プロジェクトハード整備に係る地質調査 試験年月日 令和 6年 3月 18日

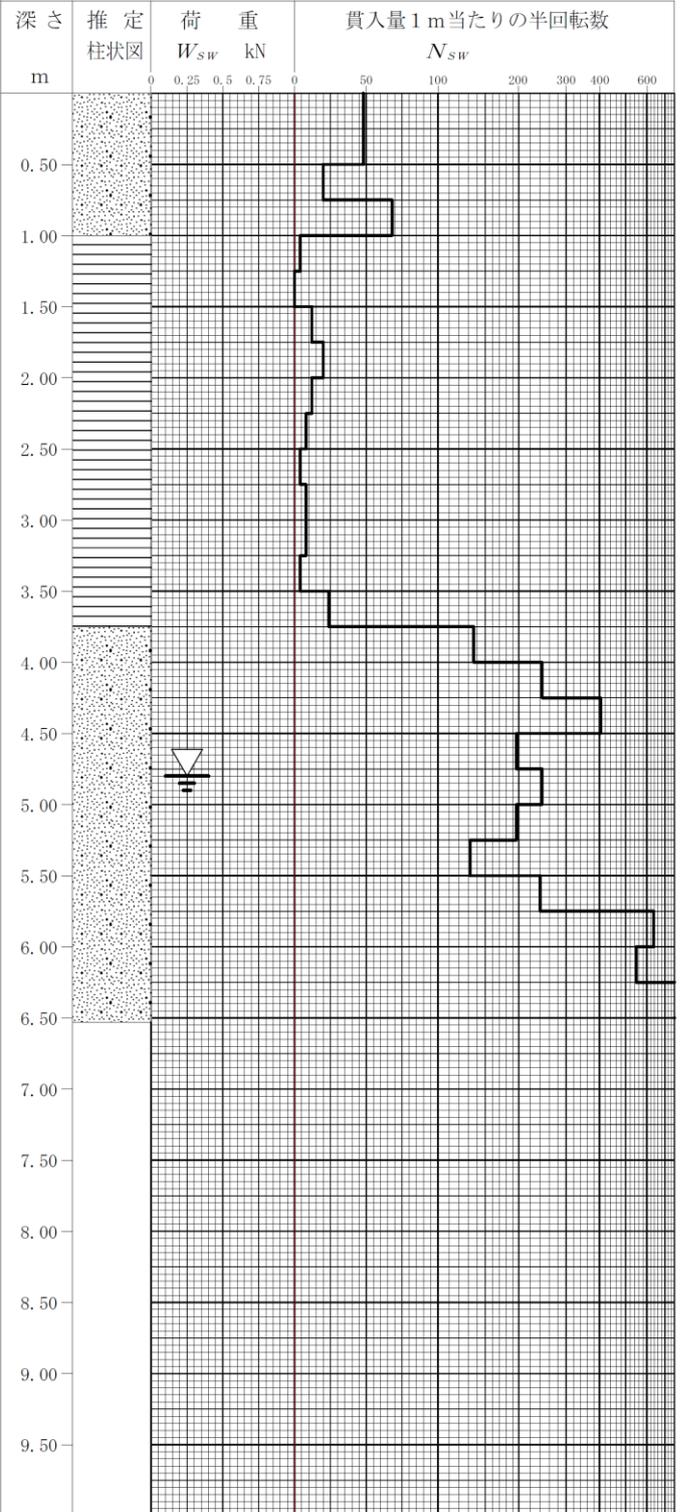
天 候 晴れ

試 験 者

測点番号 : S-3 標 高 KBM+0.27 m  
 最終貫入深さ 6.53 m 作業時間

土質記号 礫 粘土 粘土の砂混り  
 凡 例 砂 ピート 砂の粘土混り

荷重 $W_{sw}$ kN	半回転数 $N_a$	貫入深さ $D$ m	貫入量 $L$ cm	1m当りの 半回転数 $N_{sw}$	換 算 N 値	換 算 地耐力 kN/m <sup>2</sup>	記 事
1.00	12	0.25	25	48	5.2	41.6	盛土
1.00	12	0.50	25	48	5.2	41.6	"
1.00	5	0.75	25	20	3.3	26.4	"
1.00	17	1.00	25	68	6.6	52.8	"
1.00	1	1.25	25	4	3.2	32.0	
1.00	0	1.50	25	0	3.0	30.0	
1.00	3	1.75	25	12	3.6	36.0	
1.00	5	2.00	25	20	4.0	40.0	
1.00	3	2.25	25	12	3.6	36.0	
1.00	2	2.50	25	8	3.4	34.0	
1.00	1	2.75	25	4	3.2	32.0	
1.00	2	3.00	25	8	3.4	34.0	
1.00	2	3.25	25	8	3.4	34.0	
1.00	1	3.50	25	4	3.2	32.0	
1.00	6	3.75	25	24	4.2	42.0	
1.00	34	4.00	25	136	11.1	88.8	
1.00	61	4.25	25	244	18.3	146.4	
1.00	101	4.50	25	404	29.1	232.8	
1.00	49	4.75	25	196	15.1	120.8	
1.00	61	5.00	25	244	18.3	146.4	
1.00	49	5.25	25	196	15.1	120.8	
1.00	33	5.50	25	132	10.8	86.4	
1.00	60	5.75	25	240	18.1	144.8	
1.00	159	6.00	25	636	44.6	>300	
1.00	137	6.25	25	548	38.7	>300	
1.00	217	6.50	25	868	>50	>300	
1.00	90	6.53	3	3000	>50	>300	



備 考 GL-4.8m付近にて含水が高くなったので、地下水位と仮定した。

礫・砂・砂質土 :  $N = 2W_{sw} + 0.067N_{sw}$   
 粘土・粘性土 :  $N = 3W_{sw} + 0.050N_{sw}$

調査名・調査地点 矢吹町スポーツ デジタル振興プロジェクトハード整備に係る地質調査 試験年月日 令和 6年 3月 18日

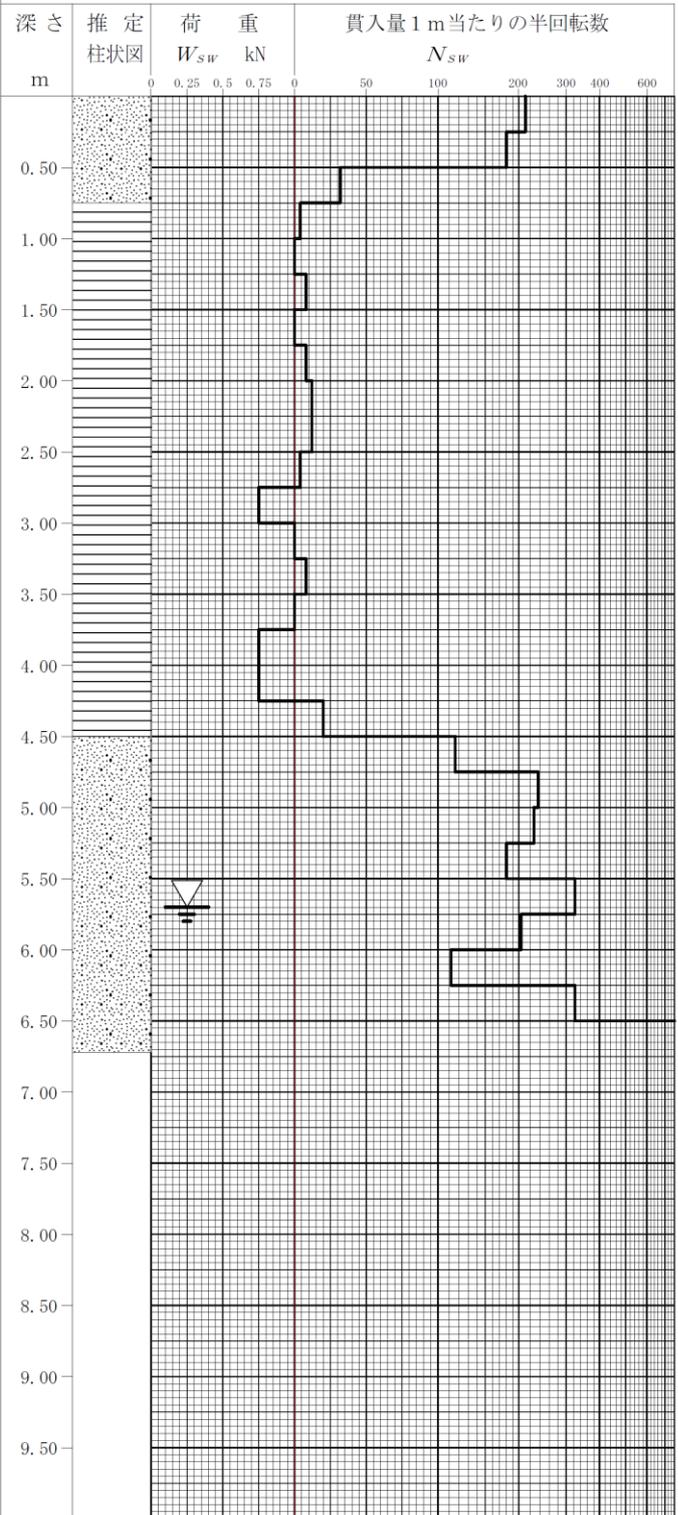
天 候 晴れ

試 験 者

測点番号 : S-4 標 高 KBM+0.06 m  
 最終貫入深さ 6.72 m 作業時間

土質記号  礫  粘 土  粘土の砂混り  
 凡 例  砂  ピート  砂の粘土混り

荷 重 $W_{sw}$ kN	半回転数 $N_a$	貫入深さ $D$ m	貫入量 $L$ cm	1mあたり の半回転数 $N_{sw}$	換 算 N 値	換 算 地耐力 kN/m <sup>2</sup>	記 事
1.00	53	0.25	25	212	16.2	129.6	盛土
1.00	45	0.50	25	180	14.1	112.8	〃
1.00	8	0.75	25	32	4.1	32.8	〃
1.00	1	1.00	25	4	3.2	32.0	
1.00	0	1.25	25	0	3.0	30.0	
1.00	2	1.50	25	8	3.4	34.0	
1.00	0	1.75	25	0	3.0	30.0	
1.00	2	2.00	25	8	3.4	34.0	
1.00	3	2.25	25	12	3.6	36.0	
1.00	3	2.50	25	12	3.6	36.0	
1.00	1	2.75	25	4	3.2	32.0	
0.75	0	3.00	25	0	2.3	23.0	
1.00	0	3.25	25	0	3.0	30.0	
1.00	2	3.50	25	8	3.4	34.0	
1.00	0	3.75	25	0	3.0	30.0	
0.75	0	4.00	25	0	2.3	23.0	
0.75	0	4.25	25	0	2.3	23.0	
1.00	5	4.50	25	20	4.0	40.0	
1.00	29	4.75	25	116	9.8	78.4	
1.00	59	5.00	25	236	17.8	142.4	
1.00	57	5.25	25	228	17.3	138.4	
1.00	45	5.50	25	180	14.1	112.8	
1.00	81	5.75	25	324	23.7	189.6	
1.00	51	6.00	25	204	15.7	125.6	
1.00	28	6.25	25	112	9.5	76.0	
1.00	81	6.50	25	324	23.7	189.6	
1.00	202	6.72	22	918	>50	>300	貫入不能



備 考 GL-5.7m付近にて含水が高くなったので、地下水位と仮定した。

礫・砂・砂質土 :  $N = 2W_{sw} + 0.067N_{sw}$   
 粘土・粘性土 :  $N = 3W_{sw} + 0.050N_{sw}$

調査名・調査地点 矢吹町スポーツ デジタル振興プロジェクトハード整備に係る地質調査 試験年月日 令和 6年 3月 18日

天 候 晴れ

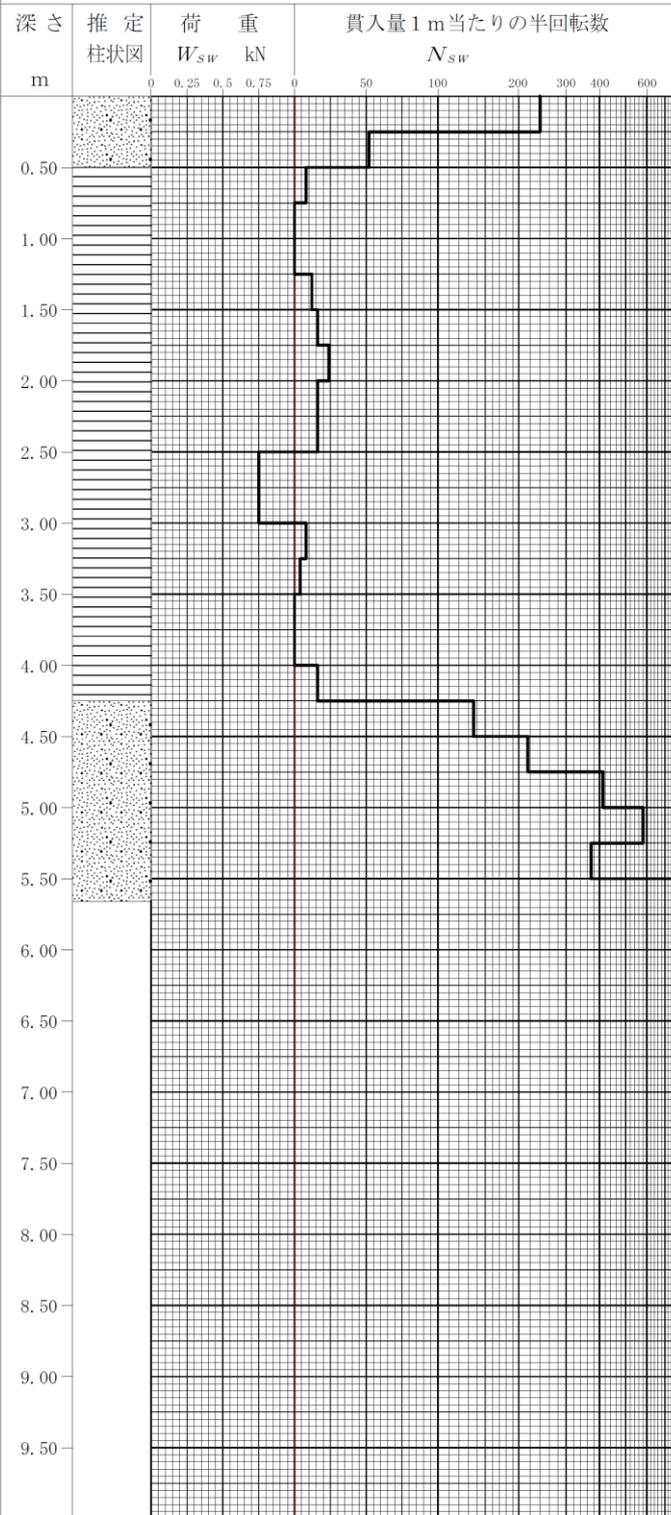
試 験 者

測点番号 : S-5 標 高 KBM-0.04 m

最終貫入深さ 5.66 m 作業時間

土質記号 礫 粘土 粘土の砂混り  
 凡 例 砂 ピート 砂の粘土混り

荷 重 $W_{sw}$ kN	半回転数 $N_a$	貫入深さ $D$ m	貫入量 $L$ cm	1m当り の半回転数 $N_{sw}$	換 算 N 値	換 算 地耐力 kN/m <sup>2</sup>	記 事
1.00	60	0.25	25	240	18.1	144.8	盛土
1.00	13	0.50	25	52	5.5	44.0	"
1.00	2	0.75	25	8	3.4	34.0	
1.00	0	1.00	25	0	3.0	30.0	
1.00	0	1.25	25	0	3.0	30.0	
1.00	3	1.50	25	12	3.6	36.0	
1.00	4	1.75	25	16	3.8	38.0	
1.00	6	2.00	25	24	4.2	42.0	
1.00	4	2.25	25	16	3.8	38.0	
1.00	4	2.50	25	16	3.8	38.0	
0.75	0	2.75	25	0	2.3	23.0	
0.75	0	3.00	25	0	2.3	23.0	
1.00	2	3.25	25	8	3.4	34.0	
1.00	1	3.50	25	4	3.2	32.0	
1.00	0	3.75	25	0	3.0	30.0	
1.00	0	4.00	25	0	3.0	30.0	
1.00	4	4.25	25	16	3.8	38.0	
1.00	34	4.50	25	136	11.1	88.8	
1.00	54	4.75	25	216	16.5	132.0	
1.00	103	5.00	25	412	29.6	236.8	
1.00	145	5.25	25	580	40.9	>300	
1.00	93	5.50	25	372	26.9	215.2	
1.00	205	5.66	16	1281	>50	>300	



備 考

礫・砂・砂質土 :  $N = 2W_{sw} + 0.067N_{sw}$   
 粘土・粘性土 :  $N = 3W_{sw} + 0.050N_{sw}$

調査名・調査地点 矢吹町スポーツ デジタル振興プロジェクトハード整備に係る地質調査 試験年月日 令和 6年 3月 19日

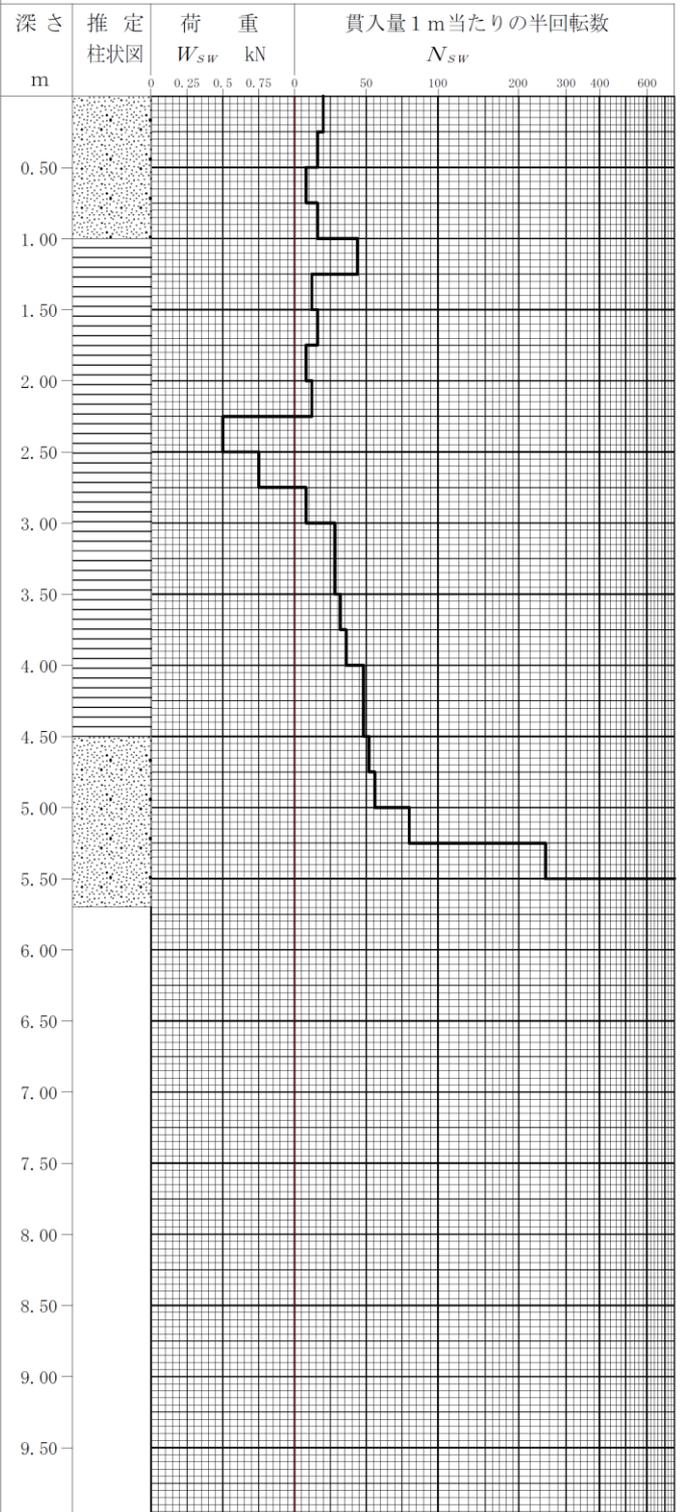
天 候 晴れ

試 験 者

測点番号 : S-6 標 高 KBM-0.14 m  
 最終貫入深さ 5.70 m 作業時間

土質記号 礫 粘土 粘土の砂混り  
 凡 例 砂 ピート 砂の粘土混り

荷 重 $W_{sw}$ kN	半回転数 $N_a$	貫入深さ $D$ m	貫入量 $L$ cm	1m当り の半回転数 $N_{sw}$	換 算 N 値	換 算 地耐力 kN/m <sup>2</sup>	記 事
1.00	5	0.25	25	20	3.3	26.4	盛土
1.00	4	0.50	25	16	3.1	24.8	"
1.00	2	0.75	25	8	2.5	20.0	"
1.00	4	1.00	25	16	3.1	24.8	"
1.00	11	1.25	25	44	5.2	52.0	
1.00	3	1.50	25	12	3.6	36.0	
1.00	4	1.75	25	16	3.8	38.0	
1.00	2	2.00	25	8	3.4	34.0	
1.00	3	2.25	25	12	3.6	36.0	
0.50	0	2.50	25	0	1.5	15.0	
0.75	0	2.75	25	0	2.3	23.0	
1.00	2	3.00	25	8	3.4	34.0	
1.00	7	3.25	25	28	4.4	44.0	
1.00	7	3.50	25	28	4.4	44.0	
1.00	8	3.75	25	32	4.6	46.0	
1.00	9	4.00	25	36	4.8	48.0	
1.00	12	4.25	25	48	5.4	54.0	
1.00	12	4.50	25	48	5.4	54.0	
1.00	13	4.75	25	52	5.5	44.0	
1.00	14	5.00	25	56	5.8	46.4	
1.00	20	5.25	25	80	7.4	59.2	
1.00	63	5.50	25	252	18.9	151.2	
1.00	237	5.70	20	1185	>50	>300	



備 考

礫・砂・砂質土 :  $N = 2W_{sw} + 0.067N_{sw}$   
 粘土・粘性土 :  $N = 3W_{sw} + 0.050N_{sw}$

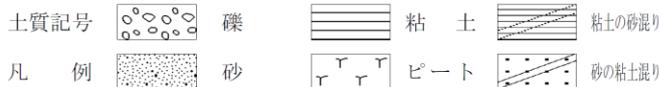
調査名・調査地点 矢吹町スポーツ デジタル振興プロジェクトハード整備に係る地質調査 試験年月日 令和 6年 3月 19日

天 候 晴れ

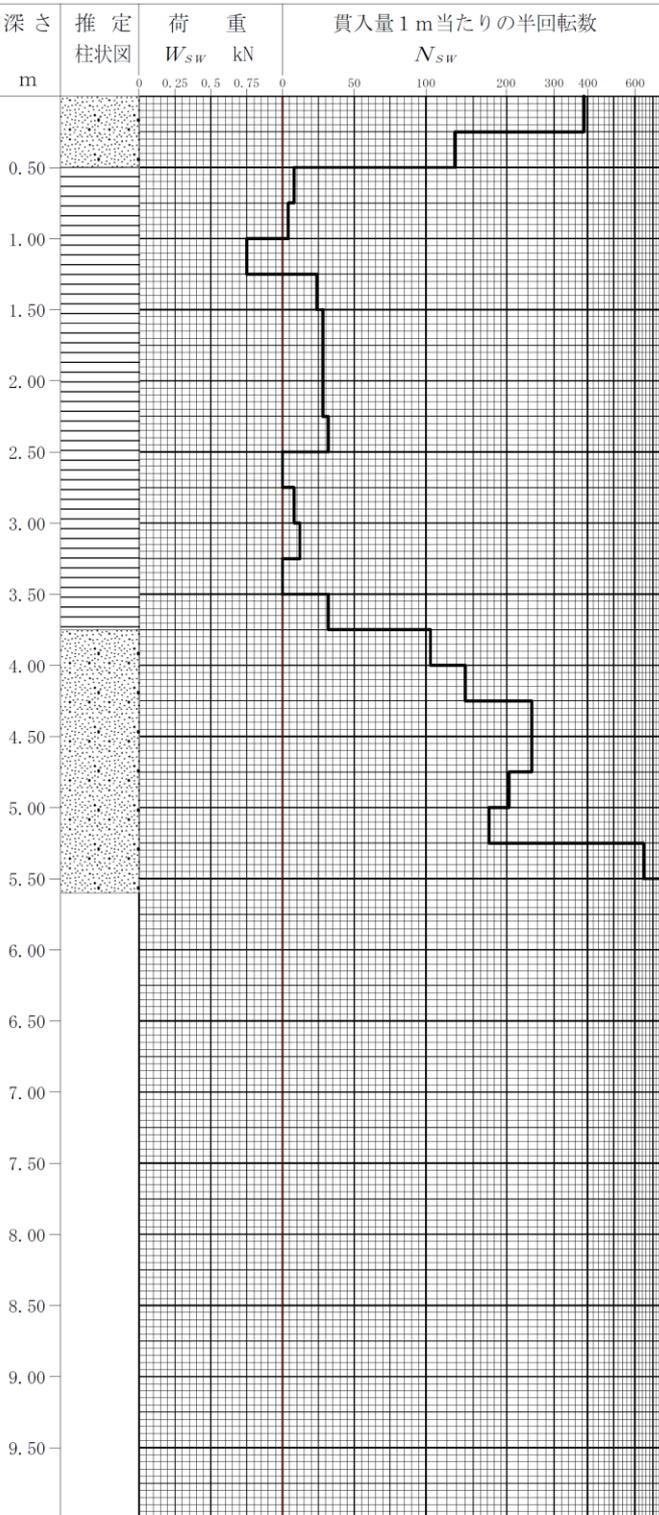
試 験 者

測点番号 : S-7 標 高 KBM-0.04 m

最終貫入深さ 5.60 m 作業時間



荷重 $W_{sw}$ kN	半回転数 $N_a$	貫入深さ $D$ m	貫入量 $L$ cm	1m当りの 半回転数 $N_{sw}$	換 算 N 値	換 算 地耐力 kN/m <sup>2</sup>	記 事
1.00	97	0.25	25	388	28.0	224.0	盛土
1.00	32	0.50	25	128	10.6	84.8	〃
1.00	2	0.75	25	8	3.4	34.0	
1.00	1	1.00	25	4	3.2	32.0	
0.75	0	1.25	25	0	2.3	23.0	
1.00	6	1.50	25	24	4.2	42.0	
1.00	7	1.75	25	28	4.4	44.0	
1.00	7	2.00	25	28	4.4	44.0	
1.00	7	2.25	25	28	4.4	44.0	
1.00	8	2.50	25	32	4.6	46.0	
1.00	0	2.75	25	0	3.0	30.0	
1.00	2	3.00	25	8	3.4	34.0	
1.00	3	3.25	25	12	3.6	36.0	
1.00	0	3.50	25	0	3.0	30.0	
1.00	8	3.75	25	32	4.6	46.0	
1.00	26	4.00	25	104	9.0	72.0	
1.00	35	4.25	25	140	11.4	91.2	
1.00	62	4.50	25	248	18.6	148.8	
1.00	62	4.75	25	248	18.6	148.8	
1.00	51	5.00	25	204	15.7	125.6	
1.00	43	5.25	25	172	13.5	108.0	
1.00	162	5.50	25	648	45.4	>300	
1.00	131	5.60	10	1310	>50	>300	



備 考

礫・砂・砂質土 :  $N = 2W_{sw} + 0.067N_{sw}$   
 粘土・粘性土 :  $N = 3W_{sw} + 0.050N_{sw}$

調査名・調査地点 矢吹町スポーツ デジタル振興プロジェクトハード整備に係る地質調査 試験年月日 令和 6年 3月 18日

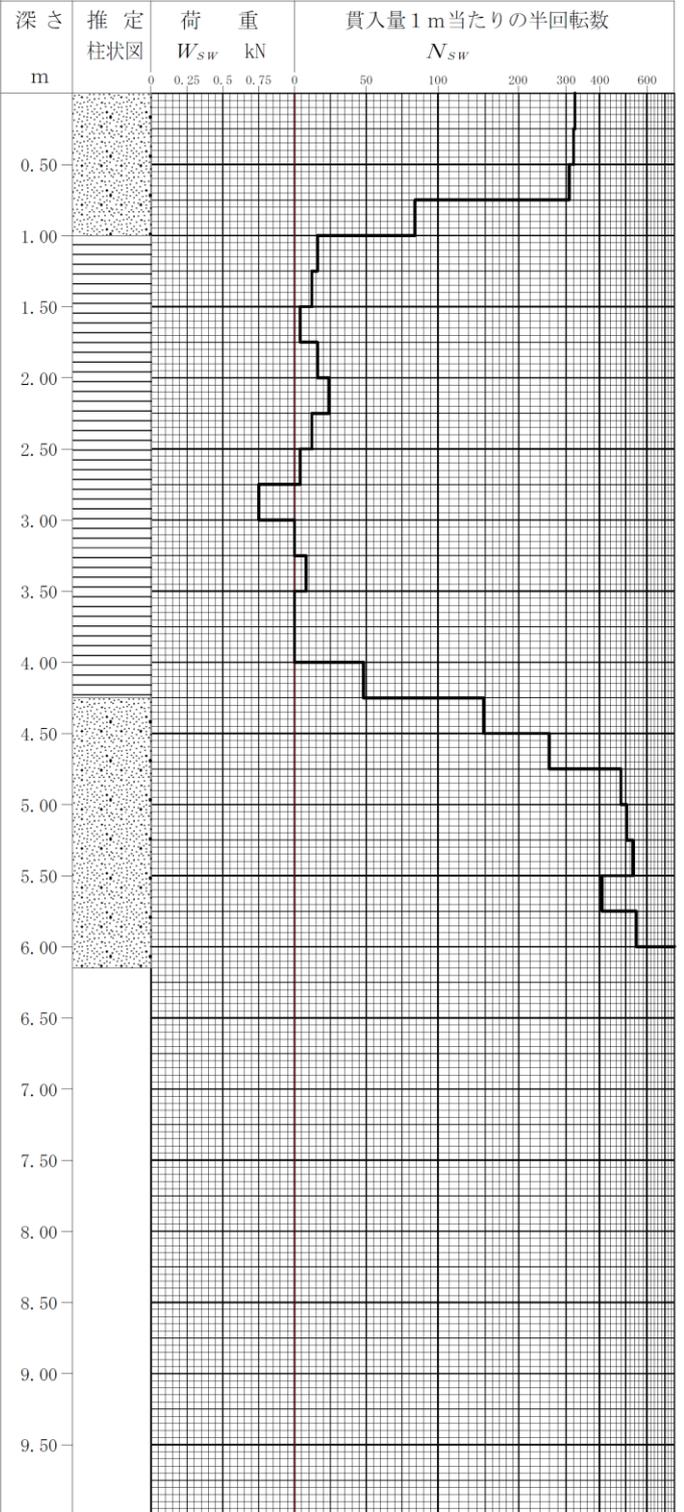
天 候 晴れ

試 験 者

測点番号 : S-8 標 高 KBM+0.08 m  
 最終貫入深さ 6.15 m 作業時間

土質記号  礫  粘 土  粘土の砂混り  
 凡 例  砂  ピート  砂の粘土混り

荷 重 $W_{sw}$ kN	半回転数 $N_a$	貫入深さ $D$ m	貫入量 $L$ cm	1m当り の半回転数 $N_{sw}$	換 算 N 値	換 算 地耐力 kN/m <sup>2</sup>	記 事
1.00	81	0.25	25	324	23.7	189.6	盛土
1.00	80	0.50	25	320	23.4	187.2	〃
1.00	77	0.75	25	308	22.6	180.8	〃
1.00	21	1.00	25	84	7.6	60.8	〃
1.00	4	1.25	25	16	3.8	38.0	
1.00	3	1.50	25	12	3.6	36.0	
1.00	1	1.75	25	4	3.2	32.0	
1.00	4	2.00	25	16	3.8	38.0	
1.00	6	2.25	25	24	4.2	42.0	
1.00	3	2.50	25	12	3.6	36.0	
1.00	1	2.75	25	4	3.2	32.0	
0.75	0	3.00	25	0	2.3	23.0	
1.00	0	3.25	25	0	3.0	30.0	
1.00	2	3.50	25	8	3.4	34.0	
1.00	0	3.75	25	0	3.0	30.0	
1.00	0	4.00	25	0	3.0	30.0	
1.00	12	4.25	25	48	5.4	54.0	
1.00	37	4.50	25	148	11.9	95.2	
1.00	65	4.75	25	260	19.4	155.2	
1.00	120	5.00	25	480	34.2	273.6	
1.00	126	5.25	25	504	35.8	286.4	
1.00	133	5.50	25	532	37.6	>300	
1.00	102	5.75	25	408	29.3	234.4	
1.00	137	6.00	25	548	38.7	>300	
1.00	163	6.15	15	1087	>50	>300	



備 考

礫・砂・砂質土 :  $N = 2W_{sw} + 0.067N_{sw}$   
 粘土・粘性土 :  $N = 3W_{sw} + 0.050N_{sw}$

調査名・調査地点 矢吹町スポーツ デジタル振興プロジェクトハード整備に係る地質調査 試験年月日 令和 6年 3月 18日

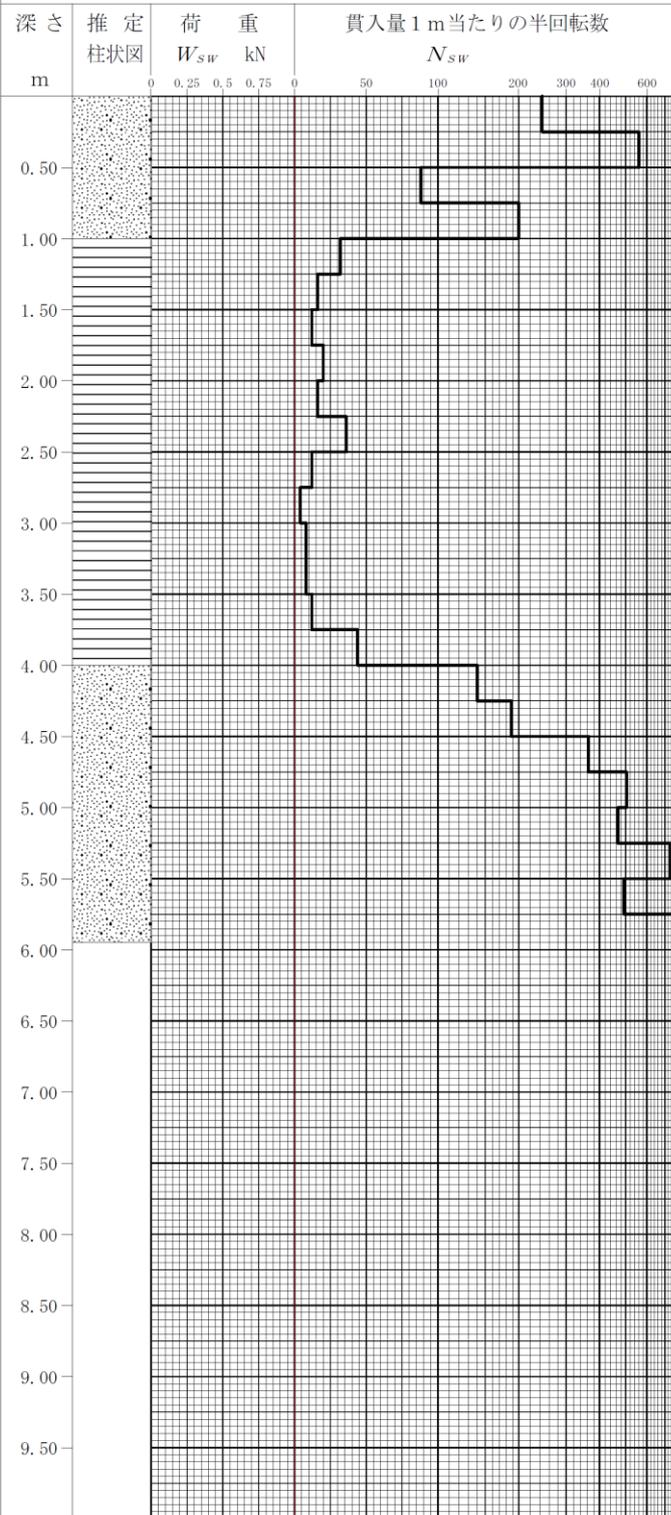
天 候 晴れ

試 験 者

測点番号 : S-9 標 高 KBM-0.03 m  
 最終貫入深さ 5.95 m 作業時間

土質記号 礫 粘土 粘土の砂混り  
 凡 例 砂 ピート 砂の粘土混り

荷重 $W_{sw}$ kN	半回転数 $N_a$	貫入深さ $D$ m	貫入量 $L$ cm	1m当りの 半回転数 $N_{sw}$	換 算 N 値	換 算 地耐力 kN/m <sup>2</sup>	記 事
1.00	61	0.25	25	244	18.3	146.4	盛土
1.00	140	0.50	25	560	39.5	>300	"
1.00	22	0.75	25	88	7.9	63.2	"
1.00	50	1.00	25	200	15.4	123.2	"
1.00	8	1.25	25	32	4.6	46.0	
1.00	4	1.50	25	16	3.8	38.0	
1.00	3	1.75	25	12	3.6	36.0	
1.00	5	2.00	25	20	4.0	40.0	
1.00	4	2.25	25	16	3.8	38.0	
1.00	9	2.50	25	36	4.8	48.0	
1.00	3	2.75	25	12	3.6	36.0	
1.00	1	3.00	25	4	3.2	32.0	
1.00	2	3.25	25	8	3.4	34.0	
1.00	2	3.50	25	8	3.4	34.0	
1.00	3	3.75	25	12	3.6	36.0	
1.00	11	4.00	25	44	5.2	52.0	
1.00	35	4.25	25	140	11.4	91.2	
1.00	47	4.50	25	188	14.6	116.8	
1.00	91	4.75	25	364	26.4	211.2	
1.00	126	5.00	25	504	35.8	286.4	
1.00	117	5.25	25	468	33.4	267.2	
1.00	183	5.50	25	732	>50	>300	
1.00	123	5.75	25	492	35.0	280.0	
1.00	204	5.95	20	1020	>50	>300	



備 考

礫・砂・砂質土 :  $N = 2W_{sw} + 0.067N_{sw}$   
 粘土・粘性土 :  $N = 3W_{sw} + 0.050N_{sw}$